オアシスの森くらぶ

ニュースレター17号　2003.2.8発行

発　行　オアシスの森くらぶ
編集委員会
発行人　永　田　　修　二
編集人　近　藤　　眞　史
編集長　五十川　　幸　夫

1月定例活動　「木登りと枯れ枝管理」

眞弓　浩二

今年最初の定例活動となった1月25日は冬の日差しがまぶしい、よく晴れたお天気でしたが、冷たい北風が身にしみる一日でした。そのせいもあってか、参加者は10名ほどでやや寂しい集まりとなりましたが、この日の講師としてお越しいただいた「ツリーハガーズインターナショナル」のメンバーは総勢8名で、全体としてはにぎやかな活動となりました。ツリーハガーズ代表の氏福さんらは、木登りでよく知られる、あのジョン・ギャスライト氏率いるツリークライミングジャパンから独立して活動を展開されており、これまでにもオアシスの森くらぶの「どんぐり祭り」や天白プレーパークなどではすでにおなじみの方々です。

クライミングギヤと呼ばれる道具を使って木に登る方法で、もともとアメリカで樹木の枯れ枝管理のために開発された技術だそうです。アメリカの樹木医はこの木登り技術の修得が義務づけられているということです。

▲木登り体験を楽しむ参加者たち

枯れ枝の管理は、オアシスの森くらぶでもこれまで行ってきましたが、高い位置の枝になるとなかなか手が出せないでいるのが現状です。特に「集いの広場」や散策路の上部にある枯れ枝などは危険で気になっていたところでした。

ツリーハガーズの皆さんが普及を進めているこの木登り技術は、このような樹木管理の目的だけでなく、木に登ること自体とても楽しい体験になります。高い木の上で見る森の風景には、また格別のものがあり新しい発見もあります。

一部には、「木登りは木にとっては良くないことだ」と苦言を下さる方もみえますが、ロープの掛け方や使用する道具は木にダメージを与えないよう配慮されたものですし、何よりも、森の魅力や森の大切さが分かる「森の仲間」を広げていくためには、このような樹との生のふれあいや森に関わる実体験がますます大切になってくるのではないかと考えています。そんな意味からも、子どもからお年寄りまで誰もが安全に木登りできるこのような活動がさらに普及していって欲しいと思うのです。

◆　◆　◆

追伸

この日は、野浪さんがお餅を差し入れて下さり、お昼に参加者たちにふるまってくれました。

味は最高、体もあったまる…、野浪さん、本当にごちそうさまでした。

▲お昼には野浪さん作の竹炭と餅が寒い体を温めてくれました

▲参加者に木登り技術や道具の説明をするツリーハガーズの氏福さんほか、メンバーの方たち